

# 食品安全情報（微生物） No.6 / 2025（2025.03.19）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

## 目次

### 【[世界保健機関（WHO）](#)】

1. コーデックス委員会の第 47 回総会において開催されたサイドイベント（スイス、ジュネーブ）

### 【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. 小型のカメに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（*Salmonella* Stanley および *S. Poona*）感染アウトブレイク（2024 年 10 月 3 日付最終更新）

### 【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)】

1. 欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）の抗菌剤耐性 – 欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク（EARS-Net）の 2023 年次疫学報告書

### 【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

### 【[欧州食品安全機関（EFSA）](#)】

1. 新興リスクに関する欧州食品安全機関（EFSA）の 2022 年の活動報告（技術報告書）

### 【[デンマーク国立血清学研究所（SSI）](#)】

1. 欧州連合食品・水由来細菌リファレンス検査機関（EURL-FWD Bacteria）を新たに設立

### 【[ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）](#)】

1. 「国際緑の週間 2025」：ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）のブースで微生物サイズの世界を体験

### 【[ProMED-mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（20）

## 【国際機関】

### ● 世界保健機関（WHO: World Health Organization）

<https://www.who.int/en/>

コーデックス委員会の第 47 回総会において開催されたサイドイベント（スイス、ジュネーブ）

Codex Alimentarius Commission: spotlight on side events at the forty-seventh session in Geneva

7 February 2025

<https://www.who.int/news/item/07-02-2025-codex-alimentarius-commission-spotlight-on-side-events-at-the-forty-seventh-session-in-geneva>

2024 年 11 月 25～30 日、スイスのジュネーブにてコーデックス委員会（CAC : Codex Alimentarius Commission）の第 47 回総会（CAC47）が開催され、今後高まるニーズに対応しうる食品の安全・品質基準の適用をめぐる議論が交わされた。また、本会議では議長および副議長 3 名を新たに選出するための投票が実施された。

11 月 29 日には世界保健機関（WHO）の Department of Nutrition and Food Safety（栄養および食品安全部門）主催によるサイドイベントがいくつか開催された。これらのサイドイベントでは、コーデックス規格のガイダンスにおける WHO の主導的役割について貴重な意見が得られ、食品安全基準向上のための国際的協力の重要性が強調された。

### ○ 安全性のその先へ：より健康的な食品であることを効果的に示すラベル表示

本サイドイベントにおいては、安全でない食品および健康的でない食品から消費者を保護するための政府主導の対策として、わかりやすい食品ラベル表示の重要性が強調された。その他、今後発表予定の WHO ガイドラインにおける、包装の前面へのラベル表示などの栄養情報の表示方針、および食品分類方針の最新情報を中心に議論が交わされた。WHO の地域分類における米州では 11 カ国が包装の前面へのラベル表示を義務化しており、義務化実施後の各国の経験にもとづく情報が共有された。また、世界貿易機関（WTO）の「貿易の技術的障害に関する協定（TBT 協定）」における健康的な食事および栄養成分表示ラベルについても議論が及んだ。貿易への影響があるとしても、消費者の健康のため国が表示に関する規制を行う権限をもつべきとの意見が出された。

議論全体の様子を記録した動画、および発表スライドは以下の Web ページ内で閲覧可能である。

<https://www.youtube.com/watch?v=z572pEcY4b8>（動画）

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh->

[proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1230-1330\\_WHO\\_side\\_event.pdf](https://www.fao.org/sites/codex/meetings/FCX-701-47/Links/1230-1330_WHO_side_event.pdf) (スライド PDF)

○ 食品安全性の促進および安全な貿易の実現のために：「コーデックス信託基金（CTF）」と「規格および通商開発機構（STDF）」

本セッションでは CTF および STDF についての紹介があり、各国の食品安全基準およびその実施能力の向上を目指す両者の連携について焦点が当てられた。CTF が各国のコーデックス参加促進に注力する一方、STDF は安全かつ包括的な食品貿易の促進に向けた取り組みを行っている。両者は進行中のプロジェクトについて情報共有を行うことで相乗効果を生み出し、複合的な利益をもたらしている。全体会議においては、共同プロジェクト、情報共有、ネットワークおよびプラットフォームの活用のための新たな機会に焦点が当てられた。

議論全体の様子を記録した動画、および発表スライドは以下の Web ページ内で閲覧可能である。

<https://www.youtube.com/watch?v=PmQT8ccQ4Io> (動画)

[https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-](https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1430-1530_CTF-STDF_side_event.pdf)

[proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1430-1530\\_CTF-STDF\\_side\\_event.pdf](https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1430-1530_CTF-STDF_side_event.pdf) (スライド PDF)

○ 食品由来疾患データにもとづく取り組み：「WHO による食品由来疾患実被害の推定」の完成に向けた各国の協力

本サイドイベントでは 2025 年末に公開予定の「WHO による食品由来疾患実被害の推定（第 2 版）」(2nd Edition of the WHO Estimates of the Burden of Foodborne Diseases) の詳細が発表された（以下 Web ページ参照）。

[https://www.who.int/teams/nutrition-and-food-safety/monitoring-nutritional-status-and-food-safety-and-events/foodborne-disease-estimates/2nd-edition-\(2025\)](https://www.who.int/teams/nutrition-and-food-safety/monitoring-nutritional-status-and-food-safety-and-events/foodborne-disease-estimates/2nd-edition-(2025))

第 2 版では WHO 加盟国に向けて、2000～2021 年に様々な食品ハザードにより生じた食品由来疾患の事例数、死亡者数、および公衆衛生上の被害推定情報が表示される。これらの知見は、「各国における食品安全リスクランキング」および世界銀行との連携にもとづき推定される「食品由来疾患による経済的損失」の参考となり得る。120 人以上の専門家が系統的レビューによりデータ収集に貢献し、全世界を対象とした感染経路調査に関する調査が進行中である。2025 年の初めには加盟国による自国の推定値のレビューが実施される見通しである。WHO データ取扱規則に従って、WHO は推定値を最終化するための作業への参加を各国政府に対して呼びかけた。これらの推定値は、政策決定への情報提供、食品安全基準

の改善、および各国の食品安全システムの強化への支援のために用いられる見通しである。

議論全体の様子を記録した動画、および発表スライドは以下の Web ページ内で閲覧可能である。

<https://www.youtube.com/watch?v=UeKvYE7p-gI> (動画)

[https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1530-1615\\_Foodborne\\_disease\\_data\\_for\\_action.pdf](https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1530-1615_Foodborne_disease_data_for_action.pdf) (スライド PDF)

○ 新たに設立されたネットワーク「WHO Alliance for Food Safety (WHO の食品安全のためのアライアンス)」について

本セッションでは、世界の食品安全性向上を目的とした WHO 協力センターおよび各国におけるその関連機関による新たなネットワーク「WHO Alliance for Food Safety」(食品安全情報 (微生物) No.13 / 2024 (2024.06.26) WHO 記事参照) について紹介があった。このアライアンスは各国間の協力、知識共有、および WHO による「食品安全のための世界戦略 2022~2030 (WHO Global Strategy for Food Safety 2022-2030)」実施の促進を目的として創設され、食品由来疾患のサーベイランスおよび汚染のモニタリングに焦点を当てている。その他の目的として、多くの分野間の連携、強固な法的枠組み作り、関連する研究機関の能力向上、高品質なデータの作成・共有、加盟国間での成功例の共有などが含まれる。

議論全体の様子を記録した動画、および発表スライドは以下の Web ページ内で閲覧可能である。

<https://www.youtube.com/watch?v=vXeZCBvmyA4> (動画)

[https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1615-1700\\_WHO\\_Alliance\\_for\\_Food\\_Safety\\_CAC47.pdf](https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/sh-proxy/en/?lnk=1&url=https%253A%252F%252Fworkspace.fao.org%252Fsites%252Fcodex%252FMeetings%252FCX-701-47%252FLinks%252F1615-1700_WHO_Alliance_for_Food_Safety_CAC47.pdf) (スライド PDF)

(食品安全情報 (微生物) No.24 / 2024 (2024.11.27) WHO 記事参照)

---

## 【各国政府機関】

● 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)  
<https://www.cdc.gov/>

小型のカメに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella Stanley* および *S. Poona*) 感染アウトブレイク (2024年10月3日付最終更新)

*Salmonella* Outbreak Linked to Small Turtles - August 2024

October 3, 2024

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/turtles-08-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/turtles-08-24/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/turtles-08-24/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/turtles-08-24/timeline.html> (Timeline)

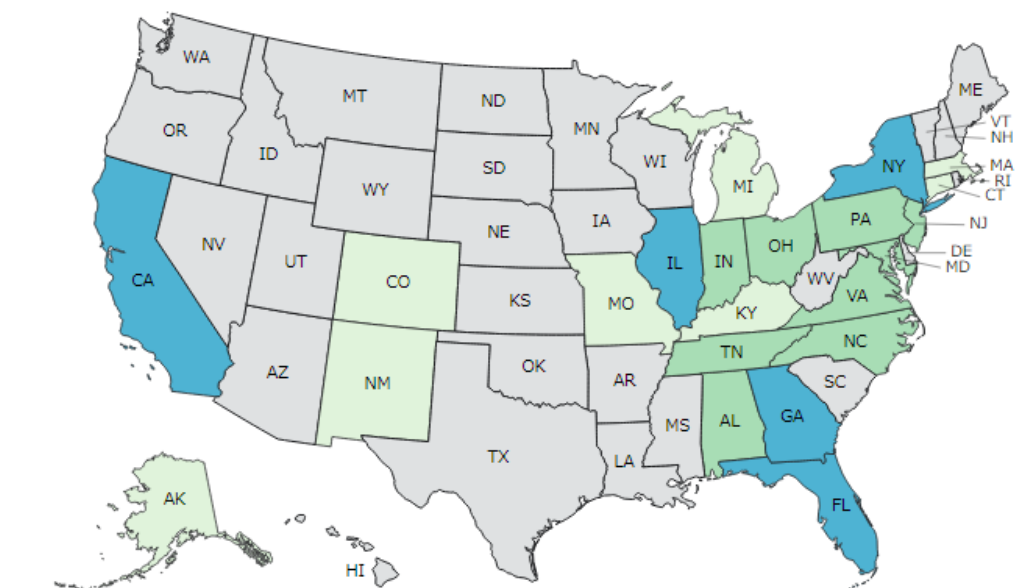
米国疾病予防管理センター (US CDC) および複数州の公衆衛生当局は、複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella Stanley* および *S. Poona*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集した。

疫学・追跡調査および検査機関での検査から得られたデータは、本アウトブレイクの患者が小型のカメとの接触により感染したことを示した。

#### ○ 疫学データ

2024年10月3日までに、サルモネラ (*S. Stanley* および *S. Poona*) アウトブレイク株のいずれかに感染した患者が22州から計63人報告され(図1)、血清型別内訳は *S. Stanley* が48人および *S. Poona* が15人であった。患者の発症日は2023年8月20日~2024年8月12日であった(図2)。情報が得られた患者62人のうち28人(45%)が入院し、死亡者は報告されなかった。

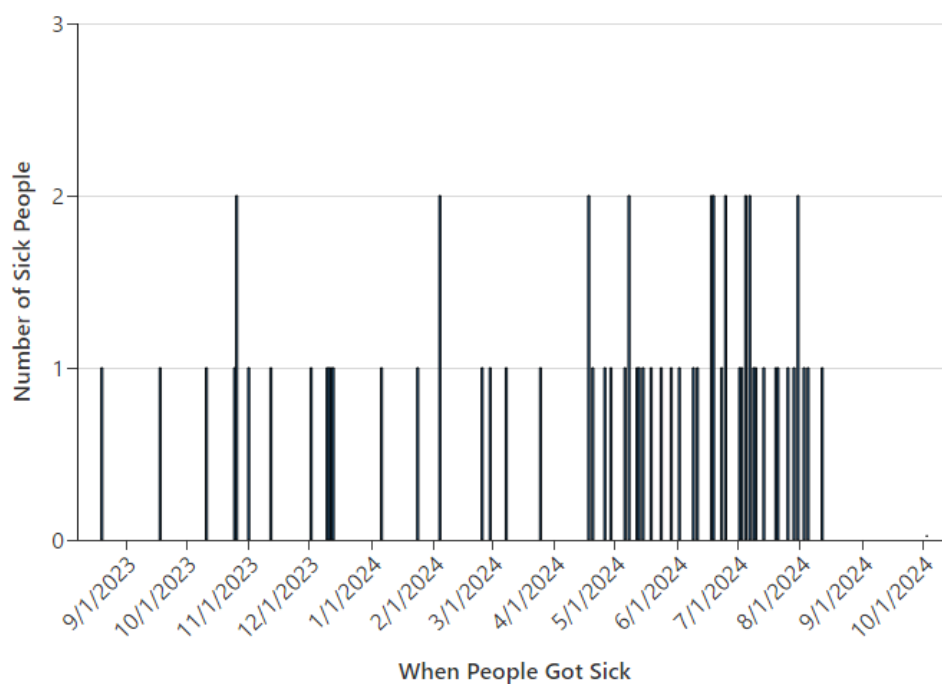
図 1 : サルモネラ (*Salmonella Stanley* および *S. Poona*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2024 年 10 月 3 日時点の計 63 人)



Number of Sick People



図 2 : サルモネラ (*Salmonella Stanley* および *S. Poona*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2024 年 10 月 3 日時点の計 63 人)



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に接触した動物など、患者に関する様々な情報を多数収集した。これらの情報は、本アウトブレイクの調査で感染源を特定するための手掛かりとなった。

本アウトブレイクの患者について得られた人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

年齢* (n=63)	年齢範囲：1 歳未満～78 歳 年齢中央値：8 歳 5 歳未満：35% 1 歳以下：19%
性別 (n=63)	49%：女性 51%：男性
人種 (n=55)	51%：白人 42%：アフリカ系アメリカ人または黒人 7%：アジア系
民族* (n=55)	64%：非ヒスパニック系 36%：ヒスパニック系

\* *S. Poona* アウトブレイク株感染患者では小児患者 (1 歳以下は 47%) およびヒスパニック系 (62%) の割合がより高い

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に接触した動物に関する聞き取り調査を行った。情報が得られた患者 53 人のうち 34 人 (64%) がペットのカメとの接触を報告した。接触したペットのカメのサイズを報告した 29 人のうち 27 人 (93%) が、甲羅の長さが 4 インチ (約 10 センチ) 未満であったと報告した。

#### ○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用した。CDC の PulseNet 部門は、胃腸疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS (全ゲノムシーケンシング) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来サルモネラ分離株がそれぞれ遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ種類の動物から感染した可能性が高いことを意味している。

WGS 解析の結果、患者由来 62 検体および環境由来 3 検体から分離されたサルモネラ株については抗生物質耐性の存在は予測されなかった。別の患者由来の 1 株では、アンピシ

リン、セフトオフル、セフトリアキソン、シプロフロキサシンおよびトリメトプリム・スルファメトキサゾールへの耐性が予測された。抗生物質耐性に関する詳細情報は、CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の以下の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。また、抗生物質が必要になった場合でも、この耐性が大多数の患者の治療に使用される抗生物質の選択に影響を及ぼす可能性は低い。

2024 年 6 月に、カリフォルニア州の患者が所有するカメ 1 匹から複数検体が採取された。このカメは屋台で販売されたものであった。ロサンゼルス郡公衆衛生局（LACDPH）の検査機関が WGS 解析を実施した結果、これらの検体から分離された *S. Poona* 株が本アウトブレイクの患者由来株と近縁であることが示された。

2024 年 7 月に、イリノイ州の患者の自宅でカメ 1 匹およびその飼育環境から複数検体が採取された。このカメは土産品店で販売されたものであった。イリノイ州公衆衛生局（IDPH）の検査機関が WGS 解析を実施した結果、これらの検体から分離された *S. Poona* 株が本アウトブレイクの患者由来株と同じ株であることが示された。

本アウトブレイクの患者 26 人が報告した小型のカメの入手経路は以下の通り様々であった（四捨五入により合計値は 100%になっていない）。

- ・ 土産品店（7 人、27%）
- ・ 屋台（6 人、23%）
- ・ オンライン小売業者（5 人、19%）
- ・ 贈り物（3 人、12%）
- ・ フリーマーケット（2 人、8%）
- ・ 不用品交換会（1 人、4%）
- ・ ペット店（1 人、4%）
- ・ ソーシャルメディア経由（1 人、4%）

これらの入手経路に共通するカメの単一の供給元は特定されなかった。

#### ○ 公衆衛生上の措置

本アウトブレイク調査は終了したが、CDC は、ペットのカメを取り扱う際に健康被害を避けるための対策として、手洗い、安全な遊び方、飼育環境や用具・餌の保管場所を清潔に保つことなどを励行するよう繰り返し助言している。

甲羅の長さが 4 インチ未満の小型のカメは購入してはならない。これらのカメは、連邦法（以下 Web ページ参照）によりペットとしての販売および流通が禁止されている。

<https://www.ecfr.gov/current/title-21/chapter-I/subchapter-L/part-1240#1240.62>



- 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/>

#### 欧州連合／欧州経済領域 (EU/EEA) の抗菌剤耐性 – 欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) の 2023 年次疫学報告書

Antimicrobial resistance in the EU/EEA (EARS-Net) - Annual Epidemiological Report 2023

18 Nov 2024

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/antimicrobial-resistance-annual-epidemiological-report-EARS-Net-2023.pdf> (報告書 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/antimicrobial-resistance-eueea-ears-net-annual-epidemiological-report-2023>

欧州における抗菌剤耐性に関し、欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) に報告されたデータの 2023 年次疫学報告書が発表された。内容の一部を以下に紹介する。

#### 主な内容

- ・ 2024 年は、欧州連合／欧州経済領域 (EU/EEA) の全加盟国が、2023 年のデータを欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) に報告した。
- ・ 抗菌剤耐性 (AMR) の状況は、抗菌剤耐性菌による血流感染症の推定罹患率 (人口 10 万人あたりの感染者数) で表されている。

#### 抗菌剤耐性に関する EU の目標

- ・ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) による血流感染症については、2023 年の EU 全体での人口 10 万人あたりの推定罹患率は 4.64 であった (国別の範囲: 0~15.5)。これは、2019 年 (ベースラインの年) より 17.6%の低下であり、2030 年の目標値である 4.79 より 0.15 低かった。EU 全体で、2019 年と 2023 年の間に統計学的に有意な低下傾向が認められた。

- ・ 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌による血流感染症については、2023年のEU全体での人口10万人あたりの推定罹患率は10.35であった（国別の範囲：0～19.56）。これは、2019年（ベースラインの年）より3.6%の低下であり、2030年の目標値である9.67より0.68高かった。EU全体で、2019年と2023年の間に統計学的に有意な傾向は認められなかった。
- ・ カルバペネム耐性の肺炎桿菌 (*Klebsiella pneumoniae*) による血流感染症については、2023年のEU全体での人口10万人あたりの推定罹患率は3.97であった（国別の範囲：0.00～21.44）。これは、2019年（ベースラインの年）より57.5%の上昇であり、2030年の目標値である2.39より1.58高かった。EU全体で、2019年と2023年の間に統計学的に有意な上昇傾向が認められた。
- ・ 以上をまとめると、MRSAによる血流感染症の罹患率は2023年に既に目標値が達成されたが、第三世代セファロスポリン耐性大腸菌による血流感染症の罹患率は2019年からのわずかな低下にとどまり、カルバペネム耐性肺炎桿菌による血流感染症の罹患率は2019年から50%以上上昇しており、2019年から2030年までに5%低下させるという目標に達していない。

#### EU/EEAにおける抗菌剤耐性の全体的状況

- ・ EARS-Netのデータによると、EU/EEAにおける2023年のAMRの割合は依然として高く、2022年までと同様であった。
- ・ EUにおける抗菌剤耐性菌による血流感染症の推定罹患率の上昇は、EUの目標値が設定されている上述の2種【编者注：原文で上昇しているのは1種】の「抗菌剤耐性－細菌種」の組み合わせだけでなく、サーベイランス対象となっている他の多くの「細菌種－抗菌剤グループ」の組み合わせでも認められた。たとえば、抗菌剤耐性（カルバペネム耐性以外）肺炎桿菌、バンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム (*Enterococcus faecium*)、ピペラシリン・タゾバクタム耐性、セフトジジム耐性またはカルバペネム耐性の緑膿菌などである。
- ・ EU/EEA加盟各国のAMRの状況は、細菌種、抗菌剤グループおよび地域によって大きく異なっていた。抗菌剤耐性菌による血流感染症の罹患率は、概して欧州の南部および南東部の諸国で特に高かった。
- ・ 細菌種ごとに、抗菌剤耐性菌による血流感染症の推定罹患率（AMRに関するEUの推奨目標値を含む）、AMR侵襲性分離株の割合、入手可能なデータ、および集中治療室の患者の割合に関する国別の情報が記載されている。年齢層別および性別のデータは、「ECDC Surveillance Atlas of Infectious Diseases」(<https://atlas.ecdc.europa.eu>)から入手可能である。

## 公衆衛生に関する結論

- 2020年のEARS-Netのデータにもとづく推定値によると、EU/EEAでは抗菌剤耐性菌感染症を直接的な原因として毎年35,000人以上が死亡している。
- EUのAMR目標値達成への全体的な進捗状況は不十分で、特にカルバペネム耐性肺炎桿菌による血流感染症の罹患率は上昇が続いていることから、AMRに対する公衆衛生対応の強化が急務であることが強く示されている。
- One HealthアプローチにもとづくEUの抗菌剤耐性対策の強化に関して、欧州理事会の推奨事項「Council Recommendation」（2023/C 220/01）が発表されており、そのなかで加盟各国のAMR行動計画の策定および実施が推奨され、その効果的な実施のために人的・財政的資源を適切に配分する必要があることが強調されている。
- AMR行動計画には、サーベイランスの強化や、病院などの医療施設における感染予防管理プログラムの強化などが重要事項として挙げられ、そこには抗菌剤管理プログラムおよび適切な検査法を取り入れるべきである。
- これまでより強力で迅速な公衆衛生対策を実施しなければ、EUが2030年までにすべてのAMR目標値を達成する可能性は低い。達成されなければ、治療がより困難な抗菌剤耐性菌の感染症患者が増え、患者の負担やAMR関連の死亡者の増加につながる。

（関連記事）

欧州疾病予防管理センター（ECDC）

抗菌剤耐性の抑制：欧州連合（EU）の目標値達成には対策の強化が必要

Reducing antimicrobial resistance: accelerated efforts are needed to meet the EU targets  
18 Nov 2024

<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/reducing-antimicrobial-resistance-accelerated-efforts-are-needed-meet-eu-targets>

（食品安全情報（微生物）No.13/2024（2024.06.26）、No.4/2024（2024.02.21）、No.4/2023（2023.02.15）ECDC、No.4/2022（2022.02.16）ECDC／WHO-Europe、No.6/2021（2021.03.17）、No.4/2021（2021.02.17）、No.20/2018（2018.09.26）、No.26/2015（2015.12.24）、No.24/2011（2011.11.30）、No.25/2010（2010.12.01）ECDC 記事参照）

---

● 欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety）

[https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety\\_en](https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en)

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

[https://food.ec.europa.eu/safety/rasff\\_en](https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en)

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2025年2月25日～3月10日の主な通知内容

#### 警報通知 (Alert Notification)

ブルガリア産アーモンドバターのセレウス菌、スペイン産ピスタチオペーストのサルモネラ属菌、ポーランド産の生鮮鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ブラジル産牛肉の志賀毒素産生性大腸菌、アイルランド産タルタルステーキのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産鶏ひき肉のサルモネラ (*S. Colindale*)、ドイツ産 (イタリア産原材料使用) 有機ラディッシュスプラウトのセレウス菌、ベルギー産ひき肉のサルモネラ、フィンランド産の卵のサルモネラ (*S. Enteritidis*) の疑い、ドイツ産犬用餌のサルモネラ (*S. Agona*)、スペイン産冷凍鶏肉のサルモネラ属菌、フランス産ヤギ生乳 (乳酸発酵) チーズのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産チーズの黄色ブドウ球菌、原産国不明バジル (みじん切り) のセレウス菌、ドバイ産 (オランダ経由) チョコレートの腸内細菌科菌群など。

#### 注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

イタリア産牡蠣のノロウイルス、ポーランド産 (スペイン産原材料使用) 豚ひき肉のサルモネラ (*S. Derby*)、フランス産の生乳チーズの志賀毒素産生性大腸菌 (O26:H11)、ブラジル産牛肉の志賀毒素産生性大腸菌、英国産ノロジカ肉の志賀毒素産生性大腸菌、ベルギー産家禽肉のサルモネラ、ポーランド産スモークサーモンのリステリア、チェコ産寿司の細菌 (腸内細菌科菌群・好気性中温菌・シュードモナス属菌)、フランス産牡蠣のノロウイルス (GI)、オランダ産牡蠣のノロウイルス、ポーランド産の生鮮鶏肉のサルモネラ属菌 (4/5 検体陽性)、リトアニア産豚肉製品の単相性サルモネラ属菌 (1/5 検体陽性)、ドイツ・ポーランド産の生鮮鶏部分肉のサルモネラ属菌 (25g 検体 3/5 陽性)、オランダ産ミックススプラウトのサルモネラ属菌、ドイツ産 (ロシア産原材料使用) スケトウダラ (L. monocytogenes)

など。

#### フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

フランス産牡蠣のノロウイルス、ベルギー産大豆ミールおよび補助飼料（豚・家禽用）のサルモネラ（*S. Agona*）、スペイン産メルルーサの線虫類、韓国産ラディッシュ葉のカビ、アイスランド産タラ肝臓のアニサキス属、インドネシア産冷凍タコのリステリア（*L. monocytogenes*）、英国産加工動物タンパク質（家禽ミール）のサルモネラ、ルーマニア産食肉のリステリア（*L. monocytogenes*）、ポーランド産冷凍鶏手羽肉のサルモネラ（*S. Infantis*）、ポーランド産七面鳥むね肉のサルモネラ属菌、ドイツ産菜種ミールのサルモネラ属菌、ポーランド産鶏もも肉（骨・皮なし）のサルモネラ（O7、3/5 検体陽性）、オーストリア産ヒマワリ種子搾油粕のサルモネラ属菌、オランダ産大豆ミールのサルモネラ（*S. Agona*）など。

#### 通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産鶏肉製品のサルモネラ属菌、トルコ産ゴマ種子のサルモネラ属菌、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

#### 違反通知 (non-compliance notification)

ルーマニア産各種家禽肉のサルモネラ属菌など。

---

#### ● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<https://www.efsa.europa.eu/en>

#### 新興リスクに関する欧州食品安全機関 (EFSA) の 2022 年の活動報告 (技術報告書)

EFSA's activities on emerging risks in 2022

Published: 2 September 2024

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/sp.efsa.2024.EN-8995> (報告書 PDF)

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-8995>

新興リスクに関する欧州食品安全機関 (EFSA) の活動の 3 つの主な目的は、「新興リスクを特定すること」「新興リスクを特定 (ERI : emerging risk identification) するためのアプローチおよびメソッドを開発・改良すること」および「特定された課題およびリスクに関する情報を共有すること」である。これらの活動によって得られる成果は、進化を続け

るリスク評価の分野において、EFSA が将来の課題を予測する際に有用である。新興リスクの特定業務に役立つ EFSA の知見共有ネットワークには、EREN（新興リスク情報交換ネットワーク）、StaDG-ER（新興リスクに関する関係者協議グループ）、EFSA の科学ユニット、科学パネル、科学委員会、およびこれらの作業グループなどがある。本技術報告書には、新興リスクの特定方法、2022 年に特定された課題、新興リスクを特定するために開発中の方法、および協力活動に関わるすべてのグループの活動がまとめられている。2022 年は、計 13 件の潜在的な新興課題が検討され、このうち 2 件が新興リスクであると結論付けられた。潜在的な課題はハザード別（微生物学的ハザード、化学的ハザード、その他）に分類された。2022 年は、新興リスクの特定に関する EFSA の活動の転換点となった。EFSA が長期戦略「EFSA Strategy 2027」で掲げる戦略的目標の No.2「Ensure preparedness for future risks analysis needs（将来のリスク分析の必要性に確実に備える）」を実現するため、新たに「Environmental scanning and strategic options definition（環境調査および戦略オプションの定義）」のプロセスが策定された。このプロセスは、食品・飼料の安全性、植物の衛生および動物の健康の分野における将来必要となる情報の収集（ホライズン・スキャニング）に取り組むため、既存の新興リスク分析のワークフローに、より将来を見据えた第二のワークフローを追加したものである。将来の課題に備え、レジリエンスを強化し、また One health アプローチにもとづき積極的に将来の方向付けを行うためには、新興リスク分析のワークフローと同様に、ホライズン・スキャニングのための新たなワークフローにおいても、関係者間の相互協力が極めて重要となる。

（食品安全情報（微生物）No.21 / 2022（2022.10.12）EFSA 記事参照）

---

● デンマーク国立血清学研究所（SSI: Statens Serum Institut）

<https://www.ssi.dk>

欧州連合食品・水由来細菌リファレンス検査機関（EURL-FWD Bacteria）を新たに設立

New EU Reference Laboratory for Food- and Waterborne Bacteria Designated

11 December 2024

<https://en.ssi.dk/news/news/2024/new-eu-reference-laboratory-for-food-and-waterborne-bacteria-designated>

デンマーク（デンマーク国立血清学研究所（SSI））、オランダ（オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM））およびイタリア（イタリア国立衛生研究所（ISS））の 3 カ国の公衆衛

生機関からなるコンソーシアムは、欧州連合食品・水由来細菌リファレンス検査機関（EURL-FWD Bacteria）を新たに設立するよう欧州連合（EU）から任命された。

サルモネラ、リステリア、赤痢菌、大腸菌、およびカンピロバクターなどの細菌は、動物・食品・水に存在し、ヒトが感染すると重症化する可能性がある。これらの細菌によるアウトブレイクは、大規模な集団に健康被害が及ぶことが多く、また国境を越えて拡大することで、各国の医療システムに重大な負担がかかる。

この問題への対策として、EUは標準化された方法による病原体の検出および特性解析が行われるように欧州諸国の検査機関のアプローチを統一化するため、新たなリファレンス検査機関「EURL-FWD Bacteria」を設立した。設立の目的として、診断、サーベイランス、抗生物質耐性モニタリング、およびアウトブレイク調査の強化によるEU域内検査機関全体の能力の向上、データの標準化および比較可能性の向上が挙げられる。

EURL-FWD Bacteriaは、EU加盟各国の検査機関に対し、検査方法に関する支援を行い、分析精度の向上およびアウトブレイクの特定期能力の強化に貢献する。

#### ○ 強固な連携による各国検査機関の支援

上記目標を達成するため、欧州委員会（EC）は十分な経験を有する検査機関を選出し、コンソーシアムを構成した。デンマークのSSIが中心的な統括機関となり、その主要な提携機関としての役割をオランダのRIVMおよびイタリアのISSが担う。

また、EURL-FWD Bacteriaは欧州疾病予防管理センター（ECDC）およびECと密接に協力し、食品・水由来疾患による脅威への効果的な対応を行なう。

EURL-FWD Bacteriaの設立は、国境を越える医療問題への欧州の対応能力を強化するための重要な一歩である。EU加盟国間の連携により、欧州諸国は細菌感染アウトブレイクから自国民を保護し、今後の発生時における公衆衛生上・経済上の被害を最小限に抑えるためのより効果的な体制を整えることができる。

---

#### ● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung）

<https://www.bfr.bund.de/>

「国際緑の週間 2025」：ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）のブースで微生物サイズの世界を体験

Grüne Woche: The BfR shrinks its guests to the size of bacteria

14.01.2025

[https://www.bfr.bund.de/en/press\\_information/2025/3/gruene\\_woche\\_the\\_bfr\\_shrinks\\_its\\_guests\\_to\\_the\\_size\\_of\\_bacteria-318592.html](https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2025/3/gruene_woche_the_bfr_shrinks_its_guests_to_the_size_of_bacteria-318592.html)

ベルリンで開催される食品・農・園芸産業のための2025年の国際見本市「国際緑の週間2025」において、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）は、子供たちが食品微生物の世界を遊びながら体験できるブースを開設する。このブースには、BfRによる初めての小児向け書籍として最近発行された「Luis' und Mayas Abenteuer im Schrumpflabor」（<https://www.bfr.bund.de/de/bfr-kinderbuch.html>、ドイツ語版のみ）の内容とデザインが引用されている。このブースには、冷蔵庫内での食品の正しい保存方法を体験できるコーナーがあり、また、微生物サイズに縮小された自分の姿を記念写真に残すこともできる。微生物展示コーナーでは、様々な食品微生物に関する興味深い情報が紹介され、来訪者はクイズ形式で知識を確認することができる。前回と同様に2025年も、著名なシェフがBfRの科学者たちと協力し、美味しいスナックの調理方法や家庭の台所での食品の適切な取り扱い方法について実演を行う予定である。

「国際緑の週間2025」は2025年1月17～26日に開催され、BfRのブースは会場のイベントファーム内に開設される。

---

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (20)

Cholera, diarrhea & dysentery update (20)

9 March 2025

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
エチオピア	3/7		2025年 (3/3時点)	223	4
			2022/8/27～	58,381	726
英国	3/7	エチオピアに関連	2月中旬	4*	
ドイツ	2/27	エチオピアに関連	2月	3**	

\* 3人はエチオピア旅行からの帰国者。(残り1人はエチオピアを訪問していないが、前述の帰国者1人が持ち帰った水 (holy water) を喫飲した。持ち帰った1人もその水を帰国後に喫飲した)。



\*\* 2人は1月にエチオピア旅行に行き、水（holy water）を持ち帰った。残り1人はエチオピアに行っていないが、帰国した2人とともにこの水を喫飲した。

---

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室